

特定サービス産業動態統計調査6月分の結果について

経済産業省が実施する特定サービス産業の統計調査を基に、新型コロナウイルス感染症が学習塾にどの程度の影響を及ぼしているかについてまとめました。

他業種との比較をはじめ、直近の売上高、受講生数、従業者数の近年の推移を見ることで業況を把握することを目的としています。

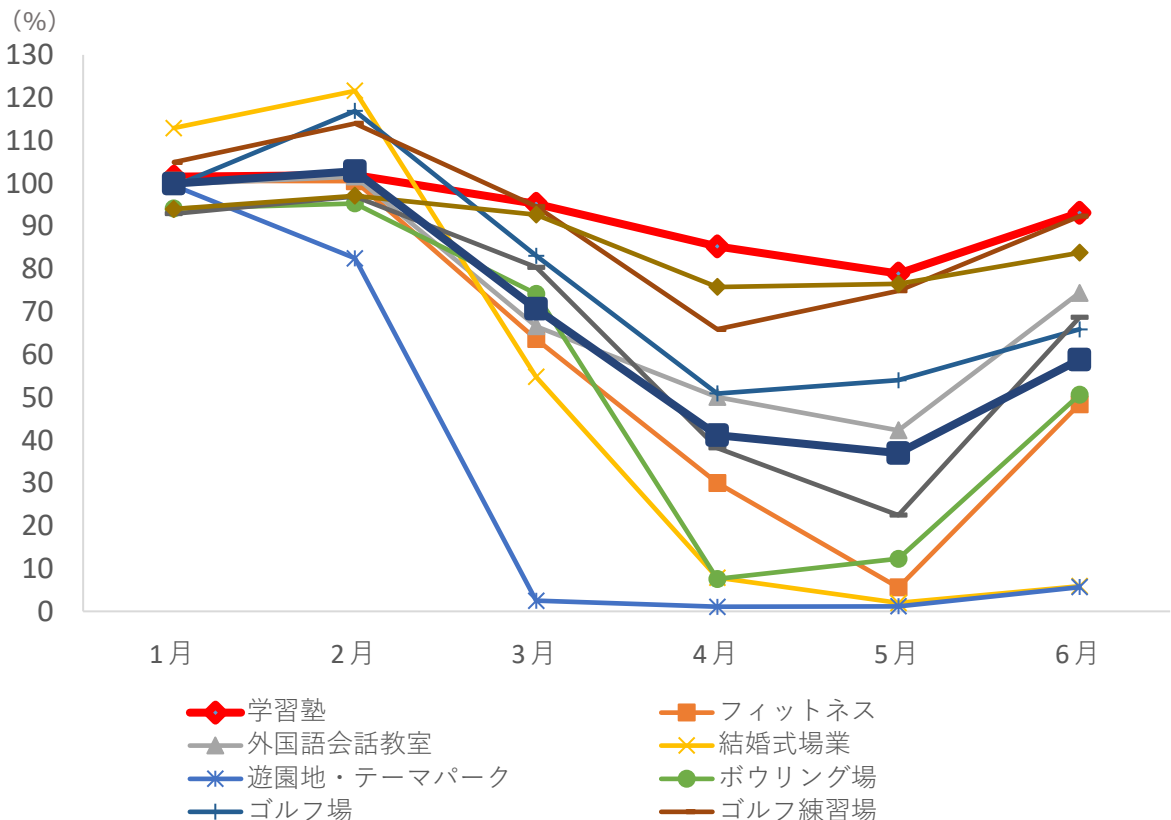
調査資料：特定サービス産業動態統計調査（経済産業省）

調査対象：経済センサス-活動調査等を母集団とし、年間売上高（全国計）のおおむね70%をカバーするまでの売上高上位の企業

1. 対個人サービス売上高前年比

(%)

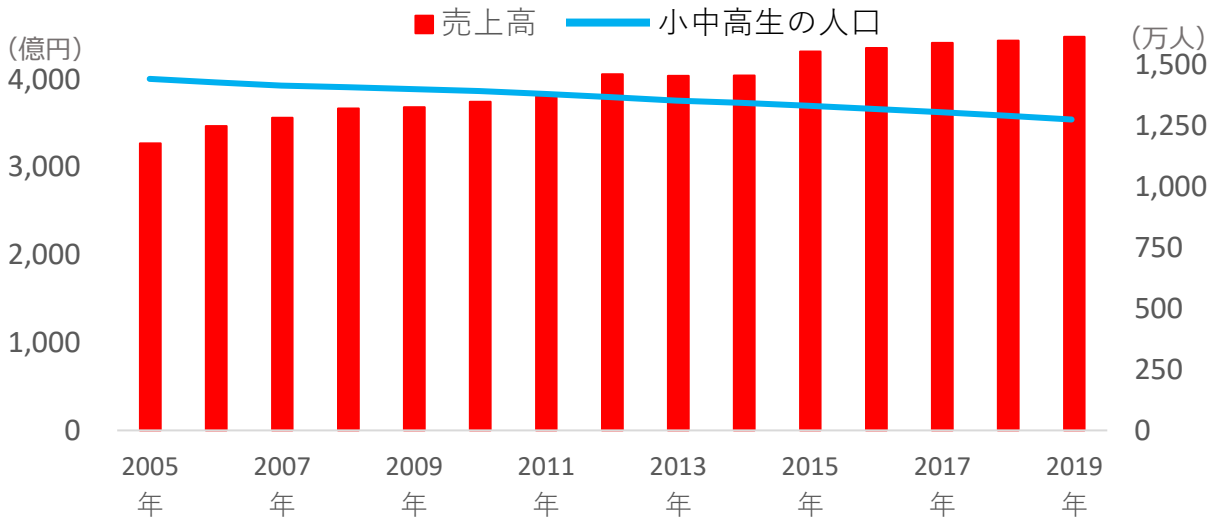
	学習塾	フィットネス	外国語 会話教室	結婚式場業	遊園地・ テーマパーク	ボウリング場	ゴルフ場	ゴルフ練習場	パチンコホール	葬儀場	平均
1月	101.6	100.6	99.8	112.9	99.5	94.1	99.3	104.9	92.9	94.0	99.9
2月	101.9	100.5	101.6	121.6	82.5	95.3	116.9	114.0	96.9	97.1	102.8
3月	95.2	63.6	66.6	54.8	2.5	74.2	83.1	94.6	80.4	92.7	70.7
4月	85.3	30.0	50.1	7.9	1.1	7.6	50.9	65.9	38.2	75.8	41.2
5月	78.9	5.6	42.3	2.0	1.2	12.3	54.0	74.9	22.5	76.5	37.0
6月	93.1	48.4	74.4	5.9	5.7	50.6	65.9	92.3	68.7	83.8	58.8



☑ 対個人サービス10業種においては、緊急事態宣言中の4月、5月の前年比の単純平均値は、4月41.2%、5月37.0%と大きく落ち込んだが、宣言解除後の6月は58.8%とやや回復傾向にある。

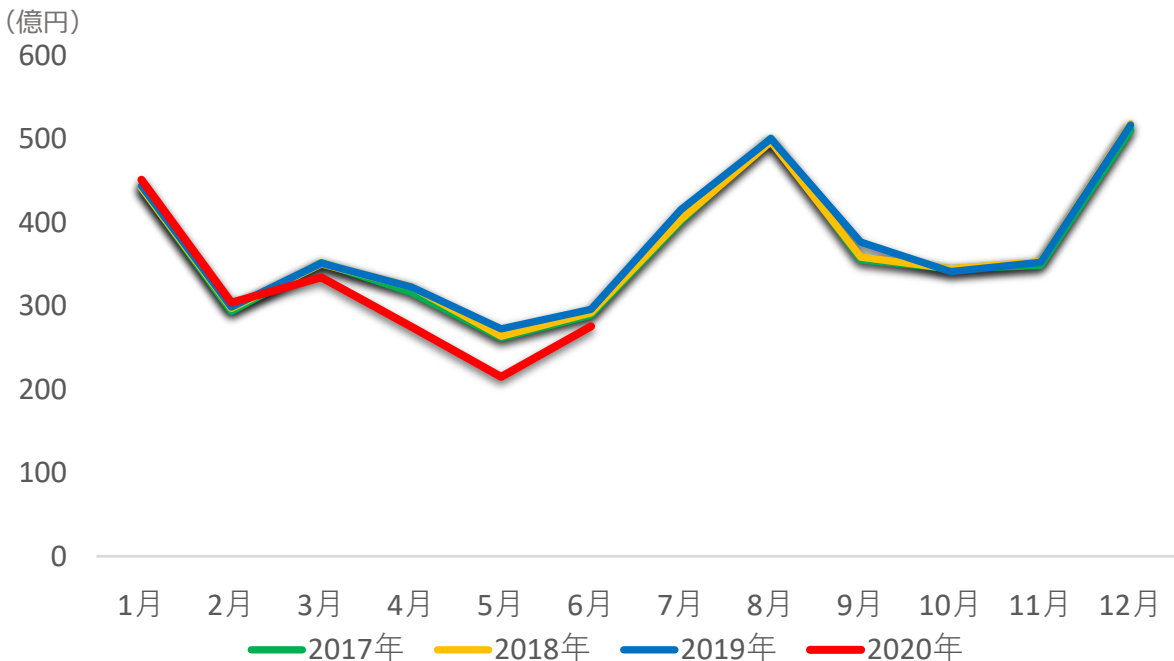
☑ 対個人サービスの中で学習塾は3月から6月すべての期間で、減少割合が最も小さい。これは既存顧客に継続的にサービスを提供するというビジネスモデルであることに加え、オンラインをうまく活用できたからといえる。また、学校休校による学習の遅れを取り戻すために「子供に勉強させたい」と考える保護者が多いことがわかる。

2. 学習塾売上高と小中高生の人口推移



☑ 学習塾は少子化の影響を受ける業界と言われて久しいが、2005年から2019年までの間に小中高生の人口が約12%減少している（「学校基本調査」より）ことに反して、売上高は約37%増加している。これは、顧客獲得や顧客単価アップ等によるところが大きい。

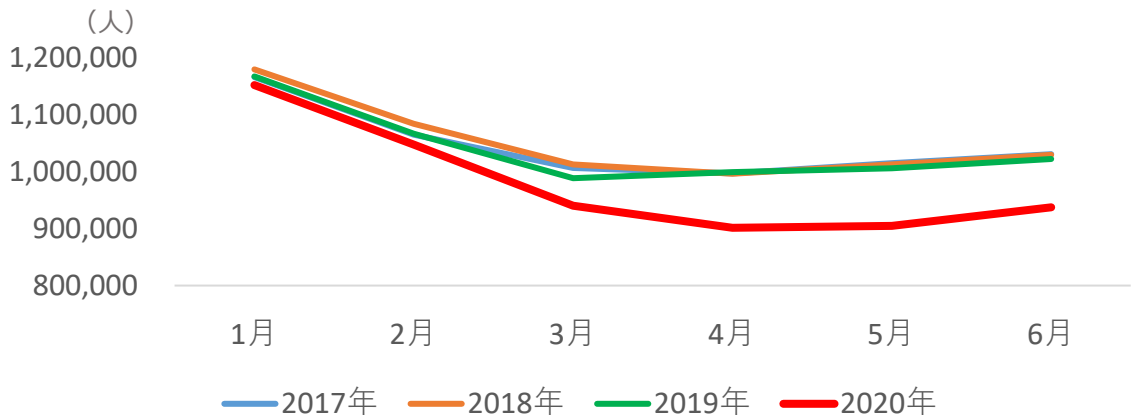
3. 近年の売上高



☑ 2020年3月から5月の売上高は感染症の影響により減少しており、その下げ幅が徐々に大きくなっていったが（3月95.2%、4月85.3%、5月78.9%）、6月は前年比93.1%と復調の兆しが見える。

☑ 例年は売上が最も見込める8月だが、今年は夏休みが概ね2週間程度と短縮されたため、夏期講習の売上高が今後の学習塾の経営に大きな影響を及ぼすと思われる。

4.近年の受講生数



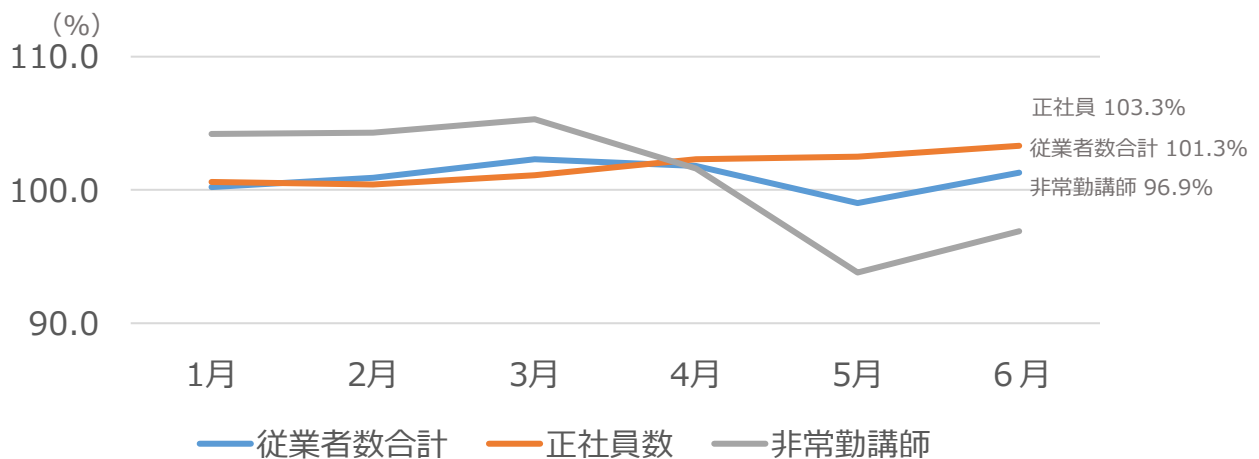
☑例年、年明けには、進路が決定して卒塾により受講者数が減少するのが一般的である。2020年3月は前年比-4.9%、4月-9.8%、5月-10.1%と減少していたが、6月は-8.3%とやや戻した。

5.顧客単価（2020年）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
顧客単価	39,190円	29,047円	35,543円	30,543円	23,782円	29,397円
前年比	103.0%	103.7%	100.0%	94.6%	87.7%	101.5%

☑4月、5月はそれぞれ前年比94.6%、87.7%と減少したが、6月は101.5%。緊急事態宣言が解除され、学習の遅れを取り戻すために、塾生が受講する講座数が増加するなど、受益する学習サービスが増加したためと思われる。

6.従業員数等の前年比



☑6月は5月に比べ、売上が若干回復したこともあり、従業員数も増加した。6月に顧客単価が前年比を上回ったように、学習に対する顧客のニーズは高いことや、本来、夏期講習で行うはずだった講座を9月以降に分散するといった取り組みを行っている塾もあるため、前年比100%前後を推移すると思われる

【お問い合わせ先】

公益社団法人全国学習塾協会

〒170-0005東京都豊島区南大塚3-39-2

TEL 03-6915-2293 MAIL info@jja.or.jp

ホームページ <https://www.jja.or.jp>